

第6回知的創造サイクル専門調査会

知的財産推進計画

更なる加速に向けて

2006年09月21日

キヤノン株式会社

専務取締役

知的財産法務本部

本部長

田中 信義

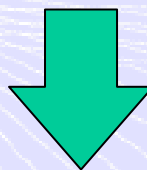
<第2期に向けて>

第1期 (2003～2005) の3年間の活動成果を分析

政府、大学、企業に対し、

- ・さらに加速すべき課題
- ・方向を修正すべき課題
- ・新しく取り組むべき課題

等を調査・分析する。



推進計画をさらに充実させ、世界トップレベルの知財立国へ

総合的な国際標準化戦略①

= 具体的な課題 (1) =

・フォーラム (トップランナー方式) 標準活動の支援強化

デジュール標準とフォーラム標準は車の両輪。

必要な場合には、政府がフォーラムでの標準化活動も積極的に支援する。

・国際標準化支援センターに統括機能をもたせる

一貫性のある国際標準化活動を推進するため、国際標準化支援センターを中心に業界団体、学会等で行われている標準化活動の有機的な連携を図る。

・中国独自の国家規格策定への対応

中国独自の国家規格が、日本の企業にも影響を及ぼしている。

日中韓協力による国際標準化活動とともに、

中国独自の国家規格策定に対する対応策を検討する。

= 具体的な課題 (2) =

・知的財産 (IP) の取扱いルールを整備

日本のリーダーシップにより、
公的標準化機関 (ISO、IEC、ITU) のIP取扱いルールを整備が進展している。
引き続き、RAND条件の基準等について検討を継続する。

・日本での国際会議開催の支援強化

ISO、IEC、ITUの国際会議を日本で開催することにより、
日本人の参加者も増え、標準化活動を活発化させることができる。
政府は、国内での国際会議の開催を積極的に支援する。

・「標準と知財」に関する啓蒙活動の強化

人材教育の一環として、ISO、IEC、ITUの議長、幹事、主査に、
国際標準支援センター等で「標準と知財に関する研修」を実施する。

キヤノンの国際標準化への取り組み

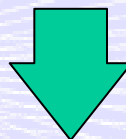
1997年 国際標準企画センター設立 ⇒ 全社的に標準化活動を推進

＜標準化活動の事例＞

1998年 OA機器間のインターフェース標準 **BMLinkS** をビジネス機械・情報システム産業協会で策定

2002年 ISO/IECの「事務機器に関する標準化委員会」において**国際幹事**に就任

2003年 デジカメとプリンタ間のダイレクトプリント標準 **PictBridge** をカメラ映像機器工業会で策定



知財重視の流れの強まり

国際標準企画センターの改編を予定(2006年内)

＜改編の目的＞

- ・知財活動と標準化活動の連携強化
- ・全社的な標準化活動の統括機能の強化

特徴のある大学へ

① 宇都宮大学との産学連携

キヤノンの光学機器部門を宇都宮地区に集結。
光学機器関連技術で宇都宮大学と産学連携を実施。

② 「大九州大学」構想

「選択と集中」により、大学を再編・統合する。大学も得意分野に特化。

＊御手洗会長 九州 大分県 での講演より

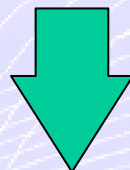
- ・九州大学 ⇒ 法学部、経済学部
- ・熊本大学 ⇒ 理工学部
- ・長崎大学 ⇒ 医学部

・・・

東欧・ロシア等の実態把握

<現状>

政府において、アジア地域を中心に「模倣品・海賊版の実態把握」が行われ、対策が実施されてきている。

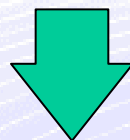


日本企業の東欧、ロシアへの進出

政府は、企業が東欧・ロシア等で事業展開するためのデータとして利用できるように、「東欧・ロシア等の模倣品・海賊版の実態」を調査する。

実務能力の担保

実務能力の低下



専門職大学院等の活用により、実務能力を向上させる。
徹底的に実務を鍛え、卒業後に即実践。

＊米国のロースクールでは、

- ・法律書 数10ページ/日の予習
- ・夏季インターンシップの実施

等により、徹底的に鍛え上げる。